

一般質問の概要

令和元年第2回 二宮町議会定例会

〇6月12日(水) 午前9時30分～

(前田憲一郎、渡辺訓任、二宮節子、小笠原陶子 各議員)

〇6月13日(木) 午前9時30分～

(羽根かほる、露木佳代、松崎健、一石洋子、大沼英樹 各議員)

※両日とも2番目以降の質問開始時刻は、直前の質問終了後となりますので、不確定です。

※議員の質問時間は、1件につき40分、2件以上は60分です。ただし町執行部側の答弁時間を含みません。

No	質問予定議員	質問概要
1	前田憲一郎 議員	<p>二宮町公共施設再配置・町有地有効活用について伺う (放映件名：公共施設再配置・町有地有効活用について)</p> <p>平成30年3月に出された二宮町公共施設再配置・町有地有効活用実施計画を見ると、町は公共施設などの用地として東京大学果樹園跡地、国立小児病院跡地、正泉寺跡地を所有している。現状では、これらの土地は暫定的な利用にとどまっており、公共施設の用地や地域振興につながる活用の検討が必要です。と記載され、東京大学果樹園跡地、国立小児病院跡地は暫定利用されているが、正泉寺跡地は宅地山林で1万2千180.5㎡もの広さがあり、平成3年12月9日から平成7年3月22日にかけて二宮町土地開発公社から高額な費用をかけた購入したにもかかわらず暫定利用すら行われていない。活用の方針としては、単独での活用は困難です。隣接する役場庁舎、町民センター、武道館の敷地と一体的な活用を検討しますとなっている。今回の役場新庁舎建設問題では話題にすら上がらず塩漬け状態のままである。地域公共施設を見ても築年数が経過し、老朽化が顕著である施設が多い。これらの施設に対する改修計画は検討されているのか。小中学校の校舎を見ても耐震工事はしてあるものの塩害等による鉄筋の腐食やコンクリートの老朽化が危惧される所であり、特に二宮中学校の築58年が経過した校舎は令和2年度来年度で設定耐用年数がきてしまう。本年3月議会において廃止条例が否決された袖が浦プールはそのまま放置するのか。疑問に感ずる点が多々ある。そこで次の要旨について伺う。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 対象となっている3町有地の有効活用をどのような計画のもと検討し、町民の利益になるように活用していくのか。2. 老朽化が危惧される地域集会施設の改修計画は検討されているのか。3. 設定耐用年数がせまってきている学校施設に対し、どのような対応をしていくのか。4. 廃止条例が否決された袖が浦プールについて今後どのようにしていくのか。

2	渡 辺 訓 任 議 員 (2 件)	<p>災害発生時の対応と町民の安全確保について (放映件名：災害発生時の対応と町民の安全確保)</p> <p>昨年は「自主防災組織活動マニュアル作成の手引き」が作成され、各地区で自主防災組織活動マニュアルについて本格的に策定作業に入るとされた。町は業務継続計画を策定し、図上研修も行い、主として地震災害を想定してのことであるが、日常業務をどのように復旧し、継続するかについて準備を進めていると認識している。</p> <p>肝心なのは「マニュアル作成の手引き」や「マニュアル作成」にあるのではなく、発災時の被害を最小限にとどめることであり、その際、現在置かれている自主防災組織がどれだけスムーズに機能するかが重要であることは論を待たないであろう。</p> <p>さらに、新庁舎整備に関しては、開庁までの職員と来庁者の安全性を担保する必要がある。</p> <p>発災時の対応、備えについて以下の点を尋ねる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 地区の防災計画の進捗状況は 2. 町・地区の防災訓練は、策定された防災計画に沿ったものとなっているか 3. 一時避難所、広域避難所、福祉避難所の役割は 4. 今地震が発災したら現庁舎ではどのような動きとなるのか、職員や来庁者の安全性はどう担保されるのか 5. 防災ラジオの導入を求める <p style="text-align: right;">以上</p>
<p>国民健康保険税の引き下げを求める (放映件名：国民健康保険税の引下げを求める)</p> <p>国民健康保険税の税率が今年度改定され、約 11%の引き上げとなった。退職者や自営業者など比較的経済力が弱い国保加入世帯の保険税の負担は限界に達している。また、一般の社会保険との差が大きく広がりつつあることも、くらしの格差を広げるという点で問題である。この一つの原因は国民健康保険税が現在の「人頭税」とも呼ばれる均等割にあるという指摘もあり、全国知事会も公費投入で協会けんぽ並みの負担にすべきとの提言をしている。町は保険税率について、今年度から県の示す標準税率を適用するとしたが、保険税率の設定は町で独自に行うことができる。</p> <p>町での国民健康保険加入者の置かれている状況について問うとともに、均等割の減額など国民健康保険税の引き下げなどの施策を求める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 直近の収納率、資格証・短期証の発行など、保険税納入状況は 2. 国保加入世帯の構成や経済状況など、町の国保加入世帯の状況は 3. 独自の税率設定や子ども向けの均等割の減額など町独自の仕組みについてどのように考えるか <p style="text-align: right;">以上</p>		

3	二宮節子 議員 (2件)	<p>消防団の処遇について (放映件名：消防団の処遇について)</p> <p>阪神淡路大震災において、日ごろの消防団が地域に密着した活動の経験により、倒壊家屋から数多くの人々を救出した活躍には、目覚ましいものがありました。こうした活動により、地域密着性や大きな動員力を有する消防団の重要性が再認識されています。本業を持ちながら自らの地域は自らで守るという郷土愛の精神に基づき、消防、防災活動を行う消防団員は、高齢化が進展し要配慮者が増えていく時代に、益々重要な存在となります。そこで以下3点について問う。</p> <p>① 現在の団員数と将来の人員の見通しは。 ② 年額報酬引き上げの見解を伺う。 ③ 準中型免許取得費用の補助の考えは。</p> <hr/> <p>死亡届に伴う、諸手続きの窓口一元化について (放映件名：死亡届に伴う、諸手続きの窓口一元化は)</p> <p>家族の死亡に伴う手続きをご遺族の心に寄り添うとともに、悲しみや心労を抱える負担軽減のために、まとめて案内できる窓口一元化を望む声がある。町にも分かりやすい説明書が用意されているが、ご遺族が各窓口を回るのが現状であり、高齢者のご遺族が増えると予想される時代に早急なる改善を求め、下記2点を問う。</p> <p>① 死亡届受付事務の現状と課題認識。 ② 早急なる一元化対応で、町民負担軽減を図る考えは。</p>
---	---	---

4	<p>小笠原陶子 議員 (2件)</p>	<p>誰もが安心して暮らせる生活環境の整備を確実に進めるには (放映件名：誰もが安心して暮らせる生活環境の整備は)</p> <p>地域福祉計画の中の基本目標の(1)に生活環境の整備として、バリアフリーの推進、移送サービスの充実、交通マナーの向上に向けた啓発活動の3つが挙げられている。これらに関し、町も過去にアンケート調査を実施し実態を把握していると思う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 買い物不便地域の高齢者は、コミュニティバスを利用しているが、バスを待つためのベンチと強い日差しや風雨を防ぐ屋根を切望している。そのために買い物行動の変化が見られる。大型スーパー前に設置するための方策を考え実施すべきだが、どうか。 そのほか、高齢者や体の弱い方のために、町の色々なところにベンチをもっと作る努力をすべきだが、その考えと対策を問う。 2. 二宮町で運行している神奈中バスは、秦野二宮線以外は赤字路線だと聞いている。バス路線廃止にならぬよう、住民が乗って支えることが大切。そのための努力を町が積極的に支援すべき。努力している地域の手法を学び、住民と一体になってその対策に努めてほしいがどうか。 <p>大人の引きこもりとニートの支援について (放映件名：大人の引きこもりとニートの支援)</p> <p>厚生労働省では、従来から、精神保健福祉、児童福祉、ニート対策等において、ひきこもりを含む相談等の取組を行っているが、平成21年度からは、これらの取組に加え、「ひきこもり対策推進事業」を創設し、ひきこもり対策の一層の充実に取り組んでいる。また、平成30年度からは、生活困窮者自立支援制度との連携を強化し、訪問支援等の取組をふくめた手厚い支援を充実させるとともに、ひきこもり地域支援センターのバックアップ機能等の強化を図っています。神奈川県では「かながわ子ども・若者総合相談センター(ひきこもり地域支援センター)」がひきこもり対策推進事業を進めている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 二宮町は県と連携しながら事業を進めていると思うが、現在の実態把握はどのように行っているか。 2. ひきこもりとニートは違う。周囲の温かい理解が重要だが、普及啓発などの事業展開を問う。 3. 個々の事例はそれぞれ違う。町の支援の今後に向けた課題と対策を問う。
---	------------------------------	--

5	羽根かほる 議員	<p>人口増加への取り組みと町の魅力づくり、町のビジョンについて (放映件名：人口増加への取り組みと町の魅力づくり)</p> <p>町は人口減少と少子高齢化が進んでいる。本年5月の人口統計では人口約2万8千人。町の人口ビジョンによると6年後の2025年に約2万6千人。6年間で2千人の減少と推計されている。ここから20年後2045年までに約6千人が徐々に減少し約2万人の町になると予測されている。人口の減少は税収の減少、商店の売上減少、町全体の衰退、土地の下落等様々なマイナス影響を及ぼすと考える。</p> <p>第5次二宮町総合計画後期基本計画での主要課題は人口減少と少子高齢化への対応を上げ、人口減少を抑え、年齢構成比のアンバランスを是正するために町が子育て世代に選ばれるための子育て支援策の充実が必要としている。子育て支援策の充実が必要であるが、子育てを終えてもこの町に住み続けたい、町で育てられた子供たちも町に戻り住み続けてもらえるような、魅力ある町づくりを今から戦略的に行っていかなければ、人口は減少し、町も衰退していく可能性が高いと考える。</p> <p>人口増を目指し、また人口の4割となっていく65歳以上の町民の方々も生き生きと安心をして、日々の生活を送れるよう、幅広い世代にも選ばれる、総合的な魅力ある町づくりの具体的な方策と目標が必要であると考え。活気のある、魅力ある町づくりを目指し、以下の点について問う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 人口の社会増を目指すための具体的な施策は。 2) 町の魅力づくりの具体的な施策と町のビジョンは。
---	-------------	--

6	露木佳代 議員	<p>庁舎の新築計画について (放映件名：庁舎の新築計画について)</p> <p>5月31日、6月1、2日の3日間、町主催の町民向け説明会が開催された。多くの町民が、耐震化されていない庁舎をこのまま使い続けることは良くないと思っていながらも、だから庁舎を新築する、という町の主張に納得がいかない様子だった。</p> <p>本来であれば、町の将来像や、今後求められる庁舎のあり方・イメージから、新しい庁舎が必要なのか、別の施設で代替できないか、一般的な箱物の形でいいのか、というところから、まちづくり全体の中で庁舎を考えるべきで、市町村役場緊急保全事業を活用するために、とにかくまずは庁舎を急いで建てる、という、逆のプロセスをたどっているために、その理由付けと実態に矛盾などが生じていると感じる。</p> <p>現在、町民有志によって「新庁舎建設計画をストップしていただきたい」という署名活動が展開されているが、たった1週間で1000名を超える数が集まったという。丁寧に説明をしながら1軒ずつ家を回ったというある方は、「意見を言える場をくれてありがとう、頑張る」と言われたそうである。「みなさんにご理解いただき、合意を取って進めていきたい」という町長は、その1000名を超える声をどう受け止めるのか。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 町民の声をどう受け止めているのか。 2. 危険回避のために、現庁舎でどのような対策を取っているか、取ろうとしているのか。 3. 庁舎を建てるうえで、大切にしたいと考えていることは何か。 4. 町は庁舎や学校再編成、地区の見直しなどに動いているが、将来の庁舎のあり方を含め、町長が持っているまちづくりのイメージ（ハードとソフト）はどのようなものか。また財政的にどう手当てするのか。 5. 今後のスケジュールについて。
---	------------	--

7	松崎健 議員	<p>二宮町小中一貫教育校設置計画について (放映件名：二宮町小中一貫教育校設置計画について)</p> <p>令和元年5月、議会全員協議会にて二宮町小中一貫校設置計画(案)が示された。本計画はいわゆる「中一ギャップ」等の現行の教育制度が抱える課題に対処するためだけではなく、特色ある学校教育を進めることにより、若い世代の人口減少に歯止めをかけることにもつながるものであるとしている。即ち、この町の将来の姿に多大なる影響を与える計画であると考えている。そこで以下の点について伺う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「1 計画の主旨」に記されている「質の高い学校教育」「特色ある学校教育」、「3 二宮町の小・中学校の状況」に記されている「社会に開かれた教育課程」とは具体的にどういう意味か？ 2. 「英語教育の充実」に関し、多文化・多言語の中で国際的な協調と協働が求められるとしてわが町では小学校一年生から英語教育を行っているとのことであるが、日本人としてのアイデンティティが確立していない子供への英語教育は慎重であるべきと考えるが、配慮はあるのか？ 3. 「4 二宮町の小・中学校における課題」に記されている「適正な学校規模が望まれる」とあるが、一色小学校単級化は今日に始まったことではない。なぜこれまで対策を講じていなかったのか。 4. 「9 学校の配置」の「急激に学校施設を減らしてしまうと、変化への対応が難しい」とのことであるが、具体的にどのような弊害が考えられるのか。 5. 本計画に対する住民説明会が予定されている。発言の自由は認められるべきものであるが、バイアスの掛かった立場の出席者(町職員、議員、町から助成を受けている団体役員等)の発言はそのことが分るようにする必要があると考えるが、どうか。 6. 計画案では素案に比べスケジュールが2年先送りされている。空き校舎の役場庁舎の利用を妨げる意図的なものか。2年の先送り並びに基本設計・実施設計・改修工事に4年を要するとする妥当性を説明願いたい。 7. 数年後には一貫校が創設される地域と空き校舎が残される地域に二分される。地域格差を少しでも解消するためにも、空き校舎を役場庁舎として利用できるか検討すべきである。その場所が交通アクセスの悪い場所であれば、町が役場へのアクセスを検討する過程において、同地域の交通弱者対策にも寄与する。空き校舎の役場庁舎としての利用可否について検討しないのはなぜか。
---	-----------	---

新庁舎建設のヴィジョンを問う (放映件名：新庁舎建設のメリットを問う)

役場新庁舎町民説明会に参加し、行政と町民のギャップを感じた。

特に若い子育て中の世代が持つ未来への展望は行政側の視点とかい離する危機感があった。

行政はいわばシステムに守られた組織で現在、そして将来の生活の持続可能性についてほぼ危機感というものを持ちにくいのではないか。

町民はこの危機感への回答を施策に求めているが、行政はあくまでもシステムの持続を優位におく。結果として施策は町民の求めるものにはならない。

今回の新庁舎の議論で行政はシステムの持続を説明したが町民が求めるのは未来への展望を持つ具体で最善の施策である。

実際政治は大きく出遅れ、日本の少子化、つまり子どもを産み育てる力、の低下は世界から驚愕される国難レベルである。

子ども達の自尊意識は低く、若者の自殺率は非常に高い。孤独な若者をめぐる様々な非常事態が起きている。岐路の時代はついに大きな深い崖っぷちの様相を見せている。

二宮町はどのようなグランドヴィジョンを持って自治体の役割を果たすのか。

この町を選び住み続けようとする人々、子どもを育てる人たち、若い方々、未来の社会のあるべき姿について目の前の様々な生活課題の中から自ら考え、提案できる方々が増えてきていると感じる。自治体は、安心して幸せに住み続けられるよう、このような住民の方々と協働で作っていかなければならない。

新しい課題解決に有効な行政と、庁舎の在り方について議論を深めたい。本来町民との対話を重ねたうえでグランドヴィジョンを作り基本構想基本計画、基本設計のスケジュールを進めるべきでありながら、国の市町村役場機能緊急保全対策事業債の申請に間に合わせるためにこの議論が次の段階に持ち越されるとして議論、対話が深まらないまま対立する様相である。

本議会は、新庁舎建設の議論の重要な局面をになうものであり、未来に向けての最も賢明な選択をするために以下の要旨で質問をする。

- ① 現在の様々な問題解決の方策として注目されているのがソーシャルワークである。新庁舎は専門的な相談機能に効果があるか
- ② 健康福祉に関わる有効な施策が持続可能な未来に向けて非常に重要である。現保健センターの機能についての課題とラディアン裏に配置されることのメリットについて
- ③ ラディアン裏に庁舎が移ることで、町の防災機能はもとより、ラディアンも含めたエリア一帯の環境、二宮町のまちづくりにどのような効果を見込むか
- ④ 「事業」には人の考えを変え、行動を変え習慣を変える力がある」とは3,11以降独自のリノベーション事業を始めた二宮在住の若い社会企業家の方の言葉である。この新庁舎建設事業はどのような力を持つのか

		<p>⑤ 基本設計、実地設計に至る過程に二宮独自の進め方があるべきと考える。二宮に生活する特色ある各種専門家の知見を集めるプロジェクトチームを作れるか</p> <p>⑥ 「脱・これまでのまちづくり」として人口3万数千人の岩手県「紫波町おガールプロジェクト」について二宮町の参考になると複数の町民からご意見を頂いている。未来を自分たち自身の手で創るための公民連携プロジェクトであるが、町民は二宮町の資源とスケールに合ったチャレンジを望んでいる。新庁舎の議論を活かし、町民の知恵と力を合わせ、町内でお金が循環し、コミュニティに資するプロジェクトを創出すべきではないか</p>
9	<p>大 沼 英 樹 議 員 (2件)</p>	<p>緊急災害への考え方と現在の取り組みを問う (放映件名：まず取組むべき災害対策は何でしょう)</p> <p>① 緊急災害、発災時の対策と町の現状について</p> <p>② 緊急災害時の役場庁舎機能の考え方および耐震脆弱の対応について</p> <p>町民サービスと町職員の現状について (放映件名：今、町職員はどうあるべきか)</p> <p>① 現、町職員の質向上の為の取り組みはいかがか</p> <p>② 労務管理および職員の能力判定について町民の声は取り入れられているか</p> <p>③ 職員の就業環境および安全対策について</p>